

目次

- 1.はじめに 1
- 2.整備センター紹介 2-3
- 3.海外供与事業について
 - (1) 事業の沿革 4
 - (2) 自転車の選定から海外輸送まで 5
 - (3) 自転車供与先と供与実績
 - (A) これまでの主な供与先 6-7
 - (B) 現在の供与先 7
 - (C) 自転車海外供与年度別内訳 8
 - (4) 現地からの評価と反響
 - (イ) 供与先各国からの勲章・感謝状等 9
 - (ロ) 学生や先生達からの喜びの声 10

1 はじめに ー 子供達の夢を叶える事業 ー

公益財団法人自転車駐車場整備センターでは、日本国内の放置自転車等を集め、仲介団体を通じて発展途上国の交通機関・交通手段が整備されていない地域等に対して無償で譲渡しています。

自転車を使用するのは、主に学校へ通学する子供達です。特に発展途上国の地方部では自宅から学校への距離があるため、通学に多くの時間を費やしたり、通学そのものを断念する子供も未だ多くいるのが実情です。

日本から送る自転車は中古とはいえ、製品の質が高く丈夫で、手入れをすれば長期間の使用が可能です。当センターとしては自転車を送るだけでなく、なるべく子供達に継続的に長く使用してもらえよう、専用の工具類や新品のタイヤ等の各主要部品と一緒に送るなど、現地の要望に

応えられるよう、この海外供与事業に取り組んできました。

自転車を手にした子供達の笑顔や嬉しそうな様子はもちろん、数年経過した後も手入れをして大事に乗っている姿を見ますと、これらの自転車がどれだけ現地で貴重なものが伝わってきます。

現地の子供達にとって自転車は勉強の機会を得るために欠かせないものであり、未来への希望でもあります。当センターは一人でも多くの子供達の夢を育て、叶えられるよう当事業を今後も長く継続していきたいと考えています。国際貢献、社会貢献の観点からも大きな意義のある当事業について、今後とも日本国内の各地方公共団体や仲介団体、更には送付先各国の仲介団体等関係の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



2 整備センター紹介 ー 自転車利用環境の向上のために ー

この海外供与事業を紹介するにあたり、まず当センター自体の事業内容についてご紹介します。

1979年設立

公益財団法人自転車駐車場整備センターは、放置自転車問題への対処が求められる社会的背景のもと、自転車利用者の利便の増進及び道路交通の安全と円滑化を図るため、自転車駐車場の整備に関する事業を行い、地域社会の健全な発展に資することを目的として1979年に設立されました。



当センター
イメージキャラクター
ピースワン



センター設立の経緯と実績

歩道や車道に大量の自転車

日本では、大都市を中心に鉄道網が整備され、鉄道が通勤通学をはじめとする日常の移動手段の中心となっています。自宅から鉄道駅までの移動手段の一つとして自転車が利用されていますが、鉄道駅周辺での自転車駐車場の不足により、歩道や車道に大量の自転車が駐車される状況が生まれました。

車場として管理運営を行い、建設資金を利用料金により償還した後、自転車駐車場を地方公共団体に無償で譲渡しています。

この事業により、屋根や防犯カメラなどが設置された利便性や安全性に優れた自転車駐車場を、地方公共団体の人的、財政的負担を大幅に軽減しながら早期に整備することができます。

また、近年では、自転車同様に駐車場が不足している原動機付自転車や自動二輪車の駐車場の整備も推進しています。

社会問題解消のために

このような放置自転車は、歩行者の通行を妨げ、消防車、救急車などの緊急車両の進入を阻害するなど道路交通上の問題となるだけでなく、周辺の商店街の営業にも影響し、また、都市景観を著しく損なうとともに、自転車の盗難の懸念が高まるなど、大きな社会問題となりました。鉄道駅周辺の大量の放置自転車を解消するためには、自転車駐車場の早急な整備が必要となりますが、地方公共団体のみによる対応には財政上の制約もあることから、有料の自転車駐車場の整備を進めるための組織として当センターが設立されたものです。

自転車駐車場の建設・管理・運営

当センターの自転車駐車場整備事業においては、地方公共団体の要請を受け、鉄道駅周辺の公有地等に自転車駐車場を建設し、有料の自転車駐

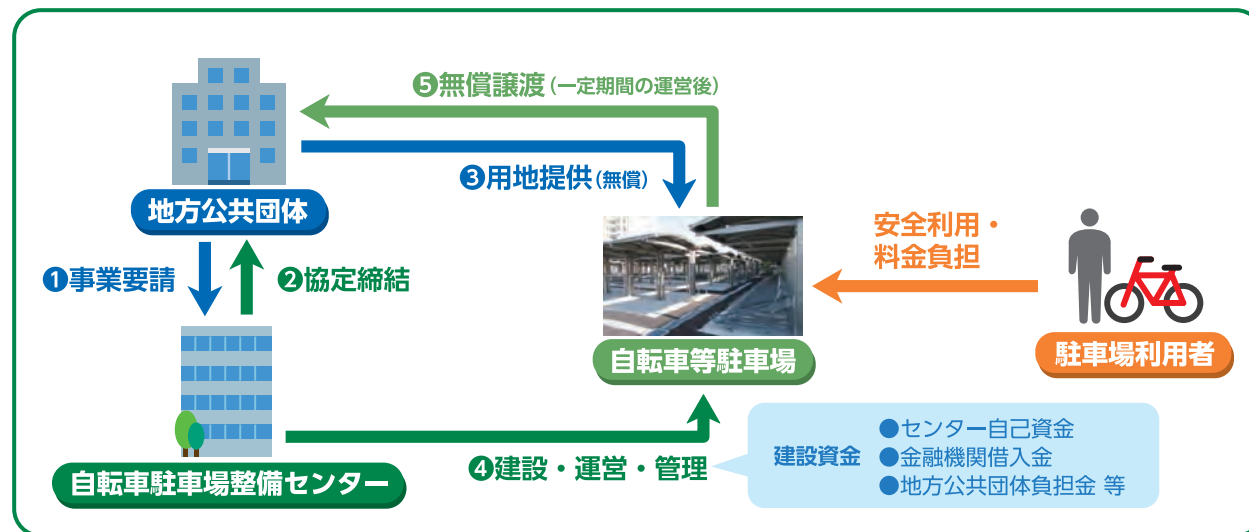


機械式ゲートの導入も
増えている



鉄道駅周辺の歩道や車道に置かれた自転車

自転車駐車場整備事業のスキーム



放置自転車約99万台が約8万台に

当センターは、設立以来、東京、大阪、名古屋の三大都市圏を中心に、約80万台分の自転車駐車場を建設し、放置自転車の解消に向け主要な役割を担ってきたところです。この間における全国の放置自転車の台数は、当センターが設立された1979年には約85万台、ピーク時の1981年には約99万台となりましたが、2015年には約8万台にまで減少しています。

さらなる自転車利用の促進へ

このほか、当センターでは、地方公共団体が建設した自転車駐車場の管理運営の受託、自転車駐車場に関する調査研究、撤去自転車の海外への無償供与などを行っています。今後は、老朽化する自転車駐車場の建替え・リニューアルや、2016年に成立した「自転車活用推進法」を踏まえ、自転車駐車場の整備を通じて、環境にやさしい身近な交通手段としての自転車利用の推進に貢献していくことも求められています。

センター事業による放置自転車対策の効果 —武蔵野市吉祥寺駅周辺—

BEFORE



1994年

センターにより
周辺に自転車駐車場が
建設された後

AFTER



2002年

写真提供：東京都武蔵野市



【管理箇所】18箇所 【管理台数】1万台超



3 海外供与事業について —1台でも多くの自転車を海外へ—

9ヶ国32団体を通じて約25万台の自転車を海外へ

当センターでは、1991年より、引き取り手のない駅周辺の放置自転車を活用した自転車海外供与事業を展開し、2017年度までに、9ヶ国32団体を通じて約25万台の中古自転車を海外に提供してきました。

(1) 事業の沿革

撤去自転車の有効活用

鉄道駅周辺の放置自転車への対策として、地方公共団体では、当センターの自転車駐車場整備事業の活用などにより自転車駐車場の整備を進めるとともに、条例に基づき、歩道などに放置された自転車の撤去を行ってきました。撤去された放置自転車については、持ち主が引き取りに來れば返還していますが、引き取り手のない自転車については、地方公共団体が処分、売却または再利用などを行っています。しかし1991年当時は、これらの自転車は資源としての価値が低く、地方公共団体が費用を負担して回収業者等がそのまま処分するというのが大半であり、撤去・処分費用の増大が問題となっており、各地方公共団体でも放置自転車対策に苦慮していました。

このような現状を踏まえ、処分される自転車の中にはまだ使用できるものも多く、これら自転車を必要とする国も多いことから、当センターとしては、放置自転車の解消を図るという見地から、地方公共団体の抱えている問題解決の一助として、また、資源の有効活用、社会貢献、更には国際貢献の見地から、自転車海外供与事業を開始することとなりました。

継続的な事業運営を支える体制

海外へ供与する際は、輸送効率を高めるため、自転車を解体し輸送用のコンテナに積んでいます。新たな供与先には、現地に組立技術指導員を派遣して技術指導を行い、自転車を組み立ててい

ます。また自転車と併せて専用工具、新品のタイヤ、チューブ、ブレーキワイヤー、エアポンプ等の部品も送ることにより、継続的に自転車の組立や修理を行うことができようになり、長期間自転車を使用することが可能となっています。なお、費用についても、自転車の引き取りから供与先の港までの運搬を含め、全て当センターが負担することにより、地方公共団体や供与先の負担を軽減し、多くの自転車を無償で譲渡できる体制を整備しています。



地方公共団体の自転車保管所
多くの自転車が集められている



現地スタッフに技術指導



放置自転車は減少、 だが自転車供与の要望は多い

供与された自転車は、交通機関、交通手段の少ない国・地域において、現在は主に学生の通学用として使用されていますが、これまでに医師・看護師などの巡回診察用、地域住民の社会福祉活動用並びに職業訓練教材用としても幅広く活用されています。

供与台数は、1996年には20,000台を超えるなど順調に事業を行ってきましたが、放置自転車自体の台数が減少したことや、地方公共団体が処分する自転車そのものの台数が減ってきたこと、更には民間事業者による有償での引き取りの増加

等もあって、近年では年間の供与台数が6,000台程度となっています。

しかし、現在においても、未だ海外からの自転車供与への要望は強く、また今般成立した「自転車活用推進法」で謳われている国際交流の更なる促進を図る上からも、当センターとしても各地方公共団体へ一層の協力を依頼するとともに、当センターが管理運営する自転車駐車場に置き去りにされた自転車を活用する等、供与自転車の台数確保に努めています。



(2) 自転車の選定から海外輸送まで

1 自転車選定作業

対象となる各地方公共団体の保管所または当センター管理の自転車駐車場において、重要部品の欠落がなく、安全走行が可能な状態のものを1台ずつチェックし選定します。



2 倉庫運搬・解体作業

選定された自転車を横浜にある倉庫へ運搬します。運ばれた自転車は海外輸送時の積載効率向上と、現地での組立技術の指導訓練のため解体します。



3 コンテナ積込作業

20フィートコンテナに自転車200台を積み込みます。継続的・長期的に自転車を活用してもらうために、工具や修理部品も併せて供与します。

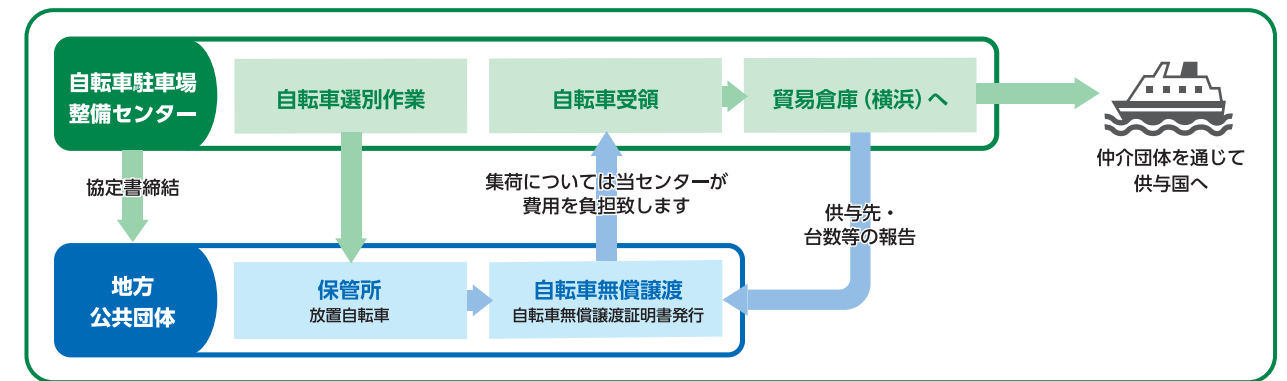


4 海外（供与先）輸送

供与する台数や輸送時期などは、各供与先の要請や自転車の選定・保管状況等によって決定します。供与された自転車は各国内で現地に送られ、各供与先団体において贈呈式が行われ、通学用として学生に供与されます。また、新たな供与先には技術指導員を派遣し、組立方法等を指導します。



自転車無償譲渡の流れ



(3) 自転車供与先と供与実績

当自転車供与事業における供与先国は、1991年の事業開始以来、ベトナム、中国、ミャンマー、ラオス、ケニアをはじめ、現在の供与先国であるタイ、カンボジア、スリランカ、フィリピンを含め9ヶ国で、供与台数の合計は約25万台に上っています。

(A) これまでの主な供与先

 **ベトナム社会主義共和国**
(供与先) ホーチミン市・労災社会福祉局

【事業期間】1991年～1992年

【供与台数】1,364台

戦争孤児の方や恵まれない生活をしている方のために供与されました。技術指導は職業訓練を受けている青年達が多くいる「戦争孤児技術研究所」で実施されました。



 **ミャンマー連邦共和国**
(供与先) ミャンマー赤十字社

【事業期間】2001年～2005年

【供与台数】16,100台

赤十字社に無料奉仕員として所属する学生達の活動支援用や学校通学用、また赤十字社の職員の貧困家庭への訪問用として供与されました。



 **ケニア王国**
(供与先) グリーンアフリカファンデーション

【事業期間】2009年～2010年

【供与台数】1,380台

ケニアと関わりのある日本の民間会社よりの要請を受け、ケニア国内の環境財団である当該財団を通じて、現地の学生達の通学用に供与されました。



 **ラオス人民民主共和国**
(供与先) ラオス子ども支援協会

【事業期間】2010年～2015年

【供与台数】1,060台

ラオス子ども支援協会は東京都にあるNGO団体です。自転車は貧困家庭の子供達の通学用に供与されました。





中華人民共和国

(供与先) 丹山市身体障害者福祉基金会

【事業期間】1994年～2000年

【供与台数】7,895台

当センターへ依頼があり、自転車は身体障害者福祉事業の一環として、身体障害者を介護する方々の活動用に供与されました。

供与先について

本項(A)で紹介した国、供与先に対する自転車の供与は終了していますが、この間多くの子供達等に自転車が供与され、各国・地域の発展に貢献することができました。

また、今後もこれ以外の国々から新たに自転車供与の要望があれば、供与先の国や団体、現地での受け入れ体制等を調査させて頂いた上で、幅広く自転車を供与していきたいと考えています。

(B) 現在の供与先

スリランカ民主社会主義共和国

(仲介団体) スリランカ学童援助会 (大阪市交野市)



【事業開始年】2010年～

【供与台数】1,030台

スリランカ学童援助会は、大阪府交野市の個人や団体が参加しているボランティア団体です。スリランカ全土を対象に、各地域の学校長に、自宅から学校までの距離が長く、貧しい環境の中でも勉学意欲のある学生を選んでもらい、自転車を供与しています。



タイ王国

(仲介団体) バンコクスリウォンロータリークラブ



【事業開始年】2001年～

【供与台数】50,940台

バンコクスリウォンロータリークラブは、タイ王国バンコクを拠点とする国際ロータリークラブ(3350地区)です。タイ全土を対象に、就業児童・学生の遠隔地通学用並びに自転車組み立て技術を通じた技術振興に役立てるため、自転車を供与しています。



カンボジア王国

(仲介団体) 国際KJO (静岡県富士市)



【事業開始年】2009年～

【供与台数】22,310台

国際KJOは、静岡県にあるNGO団体です。カンボジア全土を対象に、貧困家庭、遠距離通学の学生と家庭訪問等を行う教師のために自転車を供与しています。またカンボジアでは児童の義務教育がなく、自転車は学校教育の機会を与えるきっかけになっています。



フィリピン共和国

(仲介団体) ウィンドオブアジア (群馬県甘楽郡)



【事業開始年】2003年～

【供与台数】27,820台

ウィンドオブアジアは、群馬県にあるNPO団体です。実際の現地受け入れに際しては、フィリピンにある国際ロータリークラブが窓口となっています。炎天下で遠距離を徒歩通学しているが、体力的に通学が難しくなっている学生達に自転車を供与しています。



※供与台数は2016年度末現在

(C) 自転車海外供与年度別内訳

(単位: 台)

実施年	国別・年度別海外供与実績									年度合計
	ベトナム	スリランカ	タイ	中国	フィリピン	ミャンマー	カンボジア	ラオス	ケニア	
1991	1,124									1,124
1992	1,390	230		1,340		460				3,420
1993		433	420	1,962	430	1,385				4,630
1994		1,500	1,080	2,747		1,570				6,897
1995		2,260	1,610	5,459		2,300				11,629
1996		7,869		8,030		4,910				20,809
1997		2,660		11,290		1,150				15,100
1998		6,260		8,990		2,210				17,460
1999		7,820		7,590		460				15,870
2000		11,960		8,280						20,240
2001		3,450	460	690	5,520	6,440				16,560
2002			3,220		4,370	2,530				10,120
2003		230	4,600		3,450	920	460			9,660
2004		70	4,140		3,910	3,680	920			12,720
2005			5,060		4,370	2,530		230		12,190
2006			4,600		3,680		920			9,200
2007			4,600		3,450		1,380			9,430
2008			4,600		2,760		1,380			8,740
2009			4,140		1,840		920		920	7,820
2010		230	4,140		1,380		920	230	460	7,360
2011			1,380		2,070		1,610	230		5,290
2012		200	2,000		1,800		2,200			6,200
2013		200	2,400		1,800		3,000	200		7,600
2014		200	2,000		1,200		2,800	200		6,400
2015			1,600		600		3,000	200		5,400
2016		200	2,000		800		2,800			5,800
累計	2,514	45,772	54,050	56,378	43,430	30,545	22,310	1,290	1,380	257,669

※2016年度までにご協力いただいた地方公共団体数は計57団体、供与先団体数は計32団体となります。

(4) 現地からの評価と反響

(イ) 供与先各国からの勲章・感謝状等

協力いただいた地方公共団体に贈られる

当センターは、海外供与事業を行う中で、多くの国や団体から感謝を表明する表彰状や勲章を頂いてきました。

また、これらは自転車を供与して頂いた各地方公共団体に対しても贈られるなど、この事業への取り組みが評価されております。

カンボジア王国供与累計2万台を記念して

ここでは、最近の事例を紹介いたします。2016年11月に国際KJOを通じて、カンボジア王国に51回目の供与を行い、同国への供与が累計2万台に達しました。これを記念し、特に自転車の供与台数の多かった4区市(約2,000台以上を供与した東京都江東区、府中市、町田市、西東京市)の首長に対し、カンボジア王国社会省大臣

から勲章と感謝状が授与されました。カンボジア現地で式典に出席した当センター代表団がこれを受け取り、4区市の首長それぞれに勲章と感謝状を手渡しました。



カンボジア王国社会省大臣より
勲章と感謝状が贈られた

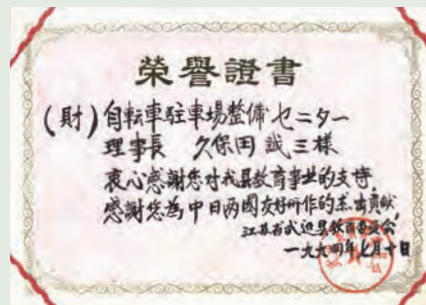
その他の感謝状



ミャンマー社会福祉局局長から
センターに感謝状



ラオス
(ヴィエンチャン)
赤十字社から各地方
公共団体に感謝状



中国武進県教育委員会
よりセンターに感謝状

(ロ) 学生や先生達からの喜びの声

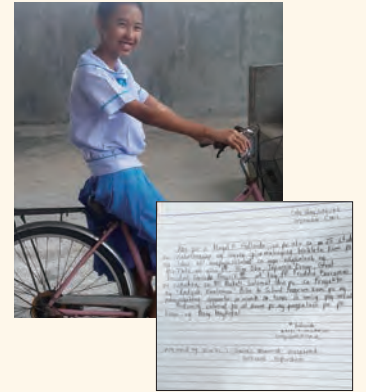
フィリピン共和国 学生から

私は、今回自転車を受け取らせて頂いた学生の一人です。日本の皆様、フィリピンのロータリークラブの皆様へ感謝の気持ちをお伝えします。

“自転車に乗って学校に行こう”プロジェクトに大変感謝しています。

私達は頂きましたこの自転車を活用し、一生懸命学校に行って勉強する事をお約束します。本当にありがとうございました。皆様に神様のご加護がありますように。

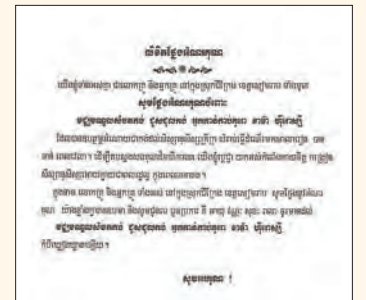
ニコラス・ガルベスメモリアルナショナルハイスクール
マイエル・ガリヤードより



カンボジア王国 先生から

貧しい学生達に自転車を贈呈して頂き、感謝申し上げます。子供達のより良い未来のために、私達教師もがんばって教育を行っていかねばならないと思っております。皆様のご健康とご活躍をお祈りしております。

シェムリアップ州
チクレン村の教師一同より



スリランカ民主社会主義共和国 学生から

私は、公益財団法人自転車駐車場整備センターと大阪のスリランカ学童援助会(SESSC)のご支援により、2017年5月27日にメダワッチャで開催された自転車贈呈式で自転車を頂き、とても嬉しく思いました。

それまでは交通手段がなくて学校に行けなかった私ですが、自転車を頂いてからは時間どおりに学校に通って勉強できるようになりました。

ペリヤ・ウルックラマ
ラクシャニ・ジャヤティレカより

